

幼児教育・学校教育に携わるすべてのみなさんへ

育ちと学びをつなぐ

園と小学校双方の子どもを育む交流活動を～交流の再開にあたって～

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、昨年度、一昨年度は中止あるいは動画等での交流に変更していた幼保小間の子どもどうしの対面交流活動の場面が、この秋、多くの学校で再開する様子を目にしました。職員の皆さんが、「できることから始めよう」「以前はどうやっていたか分からないから、改めて考えてみよう」と対面での交流活動を計画していました。

今、「幼保小の架け橋プログラム」では、交流活動が、双方の子どもにとっての成長や学びにつながるようにしていくことが重要であるとされています。どんなことを大切にするとよいでしょうか？

計画

双方の「ねらい」を確認し、見通しをもつ

小学校では、交流がどのような教科等の学習活動に位置付いているのか、どのようなねらいがあるのか、園では、どのような子どもの育ちや姿を期待しているのかなどを、幼保小の職員で共有します。交流先の子どもたちにも、声をかけたり支援したりしやすくなります。

実施

子どもをよく見て、柔軟に実施する

期待した子どもの姿に近づいているかどうか、子どもたちの様子をよく観察し、子どもの思いを大切にしながら、交流活動を進めます。

振り返り

子どもの姿を通して成長や学びを共有する

活動後、短時間でも職員間で振り返りを行っていますか？ねらいに対して実際の活動はどうだったか、どんな印象的な姿が見られたかなど、子どもの姿を通じた対話が次の活動へとつながります。電話やオンラインでの振り返りも行われています。



実際の交流活動から

さわの里小学校と上中里幼稚園・つくしんぼ保育園の交流実践例

計画 電話でやりとり。お互いにとって、無理のない交流計画をたてる

振り返り (年長さんから1年生に届いた振り返りの一部)

実践 アサガオの苗を1年生が年長さんに届け、年長さんも園でアサガオを育てる

咲いたアサガオの花で色水遊びを1年生が年長さんに教える

園に帰ってから年長さんも色水遊びに熱中する



交流場面にとどまらず、その後の園での活動の深まりにつながり、園児の探究心が芽生えている様子が見られました。

大岡小学校と近隣幼稚園・保育園の交流実践例

計画 4年生の総合的な学習。自分たちが考えたプレイパークでの遊びで園児に安心して楽しんでもらう計画をたてる

振り返り (子どもたちの振り返りから)

実践 年長さんに崖のぼりの楽しさを体験してほしい

小さい子がどんな怪我をしそうか、どうしたら怪我を防ぎながら楽しく遊ぶことができるか、遊び方の工夫を考えることが大切だとわかった。

まず、すべり台で練習してもらおう



みんなすべり台ではできるようになったよ

A・Bさん
すぐにあの崖にロープを掛けて園児に上ってもらおう

↑ 葛藤する3人。大人が見守る中、議論白熱。

Cさん
いや、安全が第一だ。別の方法を考えよう

プレイパークで遊ぶ一人一人の子の思いや考えに合わせて遊び方や関わり方を工夫できた。難しいことがあっても仲間やプレイリーダーさんたちと協力して解決できた。

3人が出した結論と実行したこと
いきなり崖ではやらない。公園内で安全な斜面にロープを掛けて練習してもらおう。

プレイリーダーさんたちや世話人の方々には本当に感謝している。もっとこの地域が好きになった。これからも地域の活動に参加したり、まちのためにできることを考えて、取り組んでいきたい。

交流会の企画を新しく行うのではなく、行っている活動や遊びを広げること、双方のねらいに沿った交流活動が実現しています。

「第1回探究心を育む『遊び』研究会」報告会を開催します

実施概要

令和5年1月14日(土)

市庁舎アトリウム (横浜市庁舎1F)

13:00~13:50 第1部 表彰・セレモニー

14:00~15:30 第2部 報告会

申し込み不要

入場無料・どなたでも自由に参観できます

- ・研究成果に対する表彰
- ・東京家政大学教授 佐藤 康富氏による講評

- ・10ブースに分かれての、成果報告。
- ・幼保小特支から38名の研究者による成果報告。

